

会 議 録

会 議 名	令和8年度 第1回佐呂間町部活動地域移行検討協議会	
開 催 日 時	令和8年4月27日（月） 午後6時30分から午後8時30分	
開 催 場 所	佐呂間町役場 2階会議室	
出 席 者	委 員	太田依里 氏（会長）、尾崎 実 氏（副会長）、風間直樹 氏、 池田 潤 氏、宮崎 勉 氏、阿部翔平 氏、滝口翔平 氏、 河井裕樹 氏、室井久志 氏、大宮義勝 氏
	事 務 局	弘内教育魅力化推進室室長、土本社会教育課長
議 題	佐呂間町学校部活動の現状と課題	
審 議 内 容	別紙のとおり	
備 考		

令和 8 年度 第 1 回佐呂間町部活動地域移行検討協議会

令和 8 年 4 月 27 日（月）

18 時 30 分～20 時 5 分

出席者：検討協議会委員（別紙） 弘内室長 土本

1. 会長挨拶：太田校長先生より

2. 新委員紹介：久末先生（佐中）

・前の 2 年間は期限付きで空知管内にいました。

うち 1 年間は、岩見沢市のバレーボールの地域展開について、会議に参加していたので、参考になるお話しができればと思います。

3. 議事

（太田校長先生より、提供の「佐呂間中学校令和 8 年度部活動の状況」資料を参照しながら説明）

・ 1 佐呂間中学校の部活動は、本校部活動の約束事が書かれています。

4 つ目は、廃部規程で、新入部員が 2 年入らない状態が続いた部活動は、廃部について協議を行うことになっています。

（先月作成したので抜けているが）野球部は今年度新入部員がいなかったもので、検討の対象になりそうです。

・ 2 部活動地域移行については、皆さんもご存知の通りです。

「注意」の部分は、中退連の大会に参加しようとした場合、よその学校、よその地域の部活と合同を組むことはできますが、部活とクラブチームの合同は認められていない場合があります。（原則認められていません。）

例えば、湧別がクラブチームになり、佐呂間が部活で残っている場合、合同チームを組むことはできません。

・ 2 ページ目は、近隣の状況です。

湧別町は、この他吹奏楽がクラブチーム化を目指しているようです。野球部は、9 年度の中体連終了後からクラブチーム 1 本化ということになっています。

紋別市は、民間の業者が介入して地域移行を進めています。

湧別町も紋別市も佐呂間町の部活動というのをすごく意識してくれており、湧別はクラブチーム化は佐呂間と一緒に、紋別はクラブチーム化したいけれど、サッカーは佐呂間と一緒に活動しなければと、部活で残してくれているようです。

遠軽町は、町内 2 つの学校で全ての部活動の人数がまかなえており、継続していけそうだとということで、地域移行は、ほとんど今検討していない状態になっています。

・ 3 今年度の各部の状況は、新入生が入って何人になったかをまとめたものです。

野球部は新入部員はいません。社会人チームの APES 代表室井さんが、部活動指導員を名乗り出て（了承して）いただいたことで、今シーズンは社会人と中学生の合同練習を基本として活動することになっています。3 年生が引退すると部員が 1 人になるので、生徒・保護者と今後どうするかを考えていきたいと思っています。

サッカーもあまり人はいません。少年団も佐呂間町単独で大会に出場していないそうです。やりたい人が集まり、ボールを蹴って楽しむくらいな活動であり、中学生になって続けるかどうかは定かじゃないというお話しでした。紋別中、潮見中、渚滑中与合同チームを組んでいます。が、何年できるかという状況だと聞いています。

バスケ部は男子が 9 名入部し、単独でチームを組み何年かできるようです。

バレー部は、男子の部員が小 6 に 1 人おり、どうするかは不明です。女子もこの人数ですので、今後他町との合同についての話しが必要かと思います。

バド部は認定クラブチーム設立に向けての検討・準備が進みそうな状況です。

吹奏楽は、コンクールに年1回出場し、それ以外は町内で演奏することが中心です。認定クラブチーム設立に向け検討・準備が始まっている状況です。

・4 学校が考える「理想」のかたちは、昨年度の職員会議で話したことです。「学校の部活しんどいね、全部地域に移行できたらいいのにね」というような話しでした。また、部活動指導員はなかなか見つけれず、現在の状況で維持していくのは、何年も持つような話ではないよねということでもとまっています。

・今後の協議会は、全5回程度行い12月までには答申をとという計画でしたが、概ね先は見えているのかなという気がするので、5回までやらなくてもいいかと考えています。教育長からは、夏までに町民向けに説明会を実施したいというお話を聞いていますので、それを受けて次の協議会を開き、答申案を作成していこうという流れがいいと考えています。資料の説明は以上です。

室井委員：野球は、別の町でとしか考えていないということですか。

太田校長：湧別のクラブチームには、入りたい子は町外からも入れるそうです。

室井委員：部活がなければ、現状遠軽町の硬式チーム、軟式チーム、大空町の硬式チームなど、中学生を取り合っている状況などはないですか。

太田校長：今のところ聞いてはいません。硬式を選ぶか軟式を選ぶかは、本人の希望になると思います。

太田校長：前回教育長から示した資料の一部を抜粋したものを別に2枚配布しています。ロードマップの案が示され、9年度を目処にこんなふうに変えてはどうか、そのためには、改革方針の中身をどのように考え、何ができるかを諮問されています。

室井委員：現状を見ると、どの部活動も広域的に連携しないと成り立たないものばかりのような気がします。他町でクラブチームができたなら部活動として一緒にはできませんね。

太田校長：競技性を求めるようなものは対応は難しいだろうということで、クラブチームができたなら、部活動はやめてそちらに入ってくださいということです。

河井委員：競技性を求めている生徒の声は聞こえていますか。

太田校長：聞こえてはいません。昨年度から部活動の結果は非常に良い成績です。

尾崎委員：先生の中で、是非指導をしたいという人はいませんか。

太田校長：正直、積極的に部活の指導をとという教員は多分いないと思います。学校が部活を維持するのはとても辛く、その競技の専門家がいればいいのですが、教員は異動がありますが、中学校の場合は教科がまず1番で、その中で競技ができる人を探します。しかも異動の対象になっている人の範囲でそれを探すため、部活の数だけその競技等の知識のある人を揃えるのは非常に苦しい。そうならないことが多いです。

やったことのないものの顧問になる現状はたくさんあり、そうすると生徒も信頼しないと思います。技術を教えられないと、生徒・保護者からニーズがあるのに応えられないという辛さがあります。部活動を6時までやれば、本来やるべきことを置いて部活動の指導することとなり、その後で本来の仕事をするすることで、退校は8時、9時になり、働く時間が増え指導されるような状況もあり、教師としては非常にしんどいところがあります。

室井委員：吹奏楽は近隣の中学校とは考えていないのですね。団体コンクールには出ないのですか。

太田校長：編成の仕方が色々あるので出場できます。

本間委員：少年団と中学校女子のバスケットを指導しています。正直指導者が少なすぎて大変です。しかし、少年団の練習がない時、中学校で練習を一緒にさせてもらい助かっています。北見市が今年度部活動がなくなるため、4つに分けてバスケットのチームを作り、代表は教員ではなく、少年団であったり、誰か代表をつけてクラブチームを立ち上げ、協力してくれる中学校の先生が、その地区に入ってくれるような感じで進んでいます。協力してくれる先生方はゼロではないと聞いています。北見市は先生の数も多いので、協力してくれる先生もいるかと思いますが、佐呂間町の中学校の先生で、もし報酬を出して協力してくれるのであれば、外部指導者がすごく助かるのかなと思います。

尾崎委員：この町としてどういう対応ができるかってことですね。そうすると移動の足などがネックになりそうですね。

本間委員：北見のバスケットのクラブチームもいくつかありますが、会費が高かったり、別の町から通うと保護者の負担も多いのは現状です。それでも子供がやりたいなら送迎しますが、時間的にも経済的にも大変だと思いますし、送迎が無理ならそれで終わってしまうのも淋しいです。平日に町内で少しでも練習ができる環境があれば、そこで練習し、土曜日は保護者の仕事も休みだから、送迎して一緒に練習しようというのが今の女子バスケットの形です。

室井委員：社会人と一緒に活動中けがをした場合の保険や責任の所在は。

弘内室長：今は部活動です。部活動指導員は会計年度任用職員として町で非常勤公務災害をかけています。

河井委員：方針としては佐呂間町で行う活動は、和気あいあいクラブでしかないと思います。競技性を求めるなら、行くのは大変でも町外に行ってくださいしかないと思います。平日の練習は町内でもできて、土日にクラブチームに行くことが可能であれば。（平日の練習は、老若男女問わず誰でもが活動できる組織）スポーツの街である以上、スポーツを勧めたい。でも連れて行かれない現状は1番可哀想なので、そこに対して町がどんな補助ができるのかどうかだと思います。

町には、和気あいあいクラブしかありません、部活はなくなりますというのは、想定している未来だと思いますし、そこで町が主体となり、指導員を確保したりなどどこまでやる覚悟があるかによって変わってくる。そこを町に確認したいと正直思います。

室井委員：合同チームやクラブチームなど、子供たちが通える行き先を確保してあげないと。

太田校長：部活の合同チームは、基本的に学校で選べないんです。足りてない同士がくっつくのが基本で、近隣ブロック内であればある程度認められています。

河井委員：一個人の意見ですが、未来が決まっているなら、町は早い段階でこういう活動にしますと決めた方がいいと思います。大会に出たいという人には、いつまでに自分たちでクラブチームを選び入るよう、はっきりした方が、親も子供も選びやすいと思います。競技性を求めるような家庭は特に早いうちに方針を示した方が親も子供もありがたいし、選択肢も増えると思います。

久末先生：岩見沢は生徒数が違いますが、部活は廃止して、地域の団体に参加してくださいと保護者に伝えていました。でも、競技志向でない子供たちのため、放課後学習会的な感じの活

動を行い、教員のローテーションで対応していました。（今日はバスケットを明日はバレーをのような）

室井委員：確かにそういう受け皿はあった方がいい。

尾崎委員：今考えているのは、運動しない（したくない）子の受け皿も必要だということです。人と交わる機会が必要だと思うので。

河井委員：文系もたくさんあると思います。例えば、放課後、寿大学の麻雀クラブや書道クラブの人たちなど含め、地域で活動してる団体に、中高生も入れてもらう形など。町自体の活動も活発になるだろうし。

船木委員：地域移行をしたことにより、何かの負担が減り、地域移行に回せるというお金はあるのか。また、個人に支出されることが増えて不公平になることはないのか。

弘内室長：現在は、部活動への運営の負担金や、部活動指導員の報酬、交通費等の予算があります。地域クラブになった場合、補助金という形でクラブに運営費を払うようになるかと思います。

全道大会などの上の大会に出場される時の補助は、現在と同じようになると思います。

太田校長：まとめますと、競技性のあるスポーツを本町に置くのは難しく、吹奏楽とバドミントンクラブを立ち上げられる方法であること。また、他に町でできることにはどんなことがあるのかをまとめてみます。（町外へ行く子どもたちにどんなサポートができ、金銭面についてはどこまで対応できるのかなど。）

風間校長：冬のスポーツもありますし、調べると放課後子供クラブとして、障害のある子を見るというのもあります。子供たちの体力の観点からバルシューレなどの活用も必要かなと思ったり、町としてのビジョンがないとならない。その辺まで見越した方がいいなと思いますけど。またスポーツクラブにするのであれば、totoの予算は使えるかと。

室井委員：補助金を3年で打ち切られて、立ち行かなくなったスポーツクラブはあるようです。研修では都会のいい話ばかりで、ダメな話しは聞きません。

池田校長：疑問なところが、結局、競技スポーツじゃない、運動したい子たちが集まるという場を作ることが果たし必要なのかと。部活動がなくなったら、そこ（集まる場）に、わざわざ行く中学生はいるのだろうか、そういう場があることを示すのが必要なのか。文科系は逆にもっとアピールしていいのかなと思います。

河井委員：確かに外に出たり、人と何かやること自体が今の子たちは好きじゃないかもしれない。だから少しでも（体力的なことを考えても）「そうじゃないよ」と、いろいろな競技を引き出してあげないとないと思います。

室井委員：激しく動かなくても、モルックやボッチャなどでも子供たちは結構はまると思います。

河井委員：結果がついてくることも重要だし、成果を発表する場があるなども必要だと思います。

（自分の子供がフラダンスをしており、上手になること、発表することを励みにしているから。）

太田校長：次回までに委員会と協力して、町でできることの資料、町ができること、補助して

もらいたいことなどを投げかける資料を準備します。委員会から地域への説明会が夏に実施される予定ですので、それを聞いた後に1回集まっていただくという形で進めていこうかと思います。よろしくお願いいたします。

(別紙)

佐呂間町部活動地域移行検討協議会委員

所属 職名

佐呂間中学校 校長 太田依里

若佐小学校 校長 風間直樹

佐呂間小学校 校長 池田 潤

佐呂間高校 校長 宮崎 勉

佐呂間小学校 教諭 阿部翔平

佐呂間中学校 教諭 久末瑠奈

佐呂間町 PTA 連合 副会長 河井裕樹

社会教育委員 船木桂輔

スポーツ推進委員 委員長 室井久志

スポーツ協会 会長 尾崎 実

文化連盟 事務局長 大宮義勝

佐呂間スポーツ少年団 本部長 本間 満